

文政雜記

壹

和書門類		三 一 七 三 二	函 號	一 四 六	架 數	一 三	冊 數	四
------	--	-----------------------	--------	-------------	--------	--------	--------	---

142

內閣文庫		三 一 七 三 二	冊 號	四	架 數	一 五 〇	函 號	二 一
------	--	-----------------------	--------	---	--------	-------------	--------	--------

和書
三一七三二號

內閣文庫		番號	和 31732
冊數	1	(1)
函號	150	142	

150-142

文政丁亥
戊子



1卷 68



文政七年 八年 十年 十一年

宿上付の多功りり有平後古著仲方舟羽又お遠
入り申し居り申す中

麻布中村町

家持信吉様

在り申す

信の助

亥十八

信の母

おの

亥十六

日人様

おの

亥十五

日人

兼吉

亥七

右母又日人多禁打所信信信信東九人成り信信信

居り申す神治治^次入水向と少くも日当り不れ
お節おのりを扱ふて者より日人而後下り

新設所信の信新道

西節右邊の店

古着海世一也

信の信

亥七

信の信

信の

亥十九

信の信

信の

甚助 亥二十位

右取各々有上列出せしよの事と不不知しよの事
ひよるすし事お生不不知お付信の信の事お成り

与高父殿に難波町向裏宿借仕り如許申渡す情
方と同様

一 派書書すみ事梳を買たりいよあり進去り
酉年午月中位寄町古道具屋なる矢の根を本お求
竹を矢に扱仕込行らし扱束の用を流す口不寛
河原橋宿社の後平田位長より中や梳と同月
日不足書付以右社後より中や梳と同日
の服腰に矢と射の之ゆり付し助より余り梳と
捕へ矢はれ也可後より付る何し助早速欠付
系りいれ梳の門端と進去り方と人共いり中

一 六月何し助と高父宿布自定下保し午月廿五日
事職任より同酉年二月臨月如月宿屋なる二月
中大難産なる二女子と産まるとお前より一育の孩湯
の如くまゝ人の男子と之共長形成り付る日一少サシ
お派同年四月月中流死去り也

一 同年二月中産後すゝ病氣に如く死す半日身
より下りて死す如く俄に獲生踊る如く氣脈相成也
又一女子とお前也

一 派書宿屋麻布中村へ付る宿屋並に宿中寄彼
是宿せし世傳し流き麻布の流るる内六宿家

紛々質の糸羅ハ首と後ね本以喰ら教ち衆中
に教らひ

一 質の四折ハ糸羅の肉と自然と皆割道徳人未之
ゆりやけりるる形あり 似る糸調を又の合ま
る為海りや

一 洗一洗ハ六十日古糸用算の門出ハ入新の交
りのるる邊に代りこ糸の流流枯成むるの質
差の花ホ入りや又因目方位石中一後家ぬん計
箱の上古を服する教海舟りりれりのるる紛々
けり子依の採採い又懐中の糸の著近し紛々去

三月廿七日 近日夜の紛々質交連る困窮おる

一 麻布同新績き地面とす不

代金と捨ば又と書す

一 同不標所地面とす不

右標有捨と書す

一 右借金方ハはり

一 南妻ハ日中同不居ハ委古糸ハ中化古但古着務
あり中を抄りハ有組合ハ今と捨ありおひ在
合依ハ為付葉井町ト裏住居跡ハ有
一 糸糸上州ハ月々或方ト捨成ハ糸上書ハ有合三方

潤道いふ事一将之羽衣納す如給夫は交信し組合
立替を貫く事印傍合出りたは合し各中ゆへ
一 伊しゆ形と遊出笑ふ事同之形取新成所
証書立古者を抱信用し各事付事し如行し
助るよるなる

一 伊しゆ身えさすも中いぬりいけしとらさく
中らるは是作れ授殿橋の川へ糸釣お小英釣寺
ゆえと糸釣にさたり申すも青流とくおぬとぬは
毎交周りりも若ぬりい糸糸りと壬辰の古新普信
の貫新石と外大石とん世のま中其のふくむ

片付二人と一人の力るい始末をお如園り入る
一 夜露子ふる好る煮てくれし中らるるる日あり
昔又信の潤いとまうて申しとす不下字又百又
のと申大おちちや潤いもりこのぬくより申す
煮湯を電ストーとと蓋流たる信るお持給は
舞り申目いさるうぬぬ也まふも新成所定と指
し信らりぬしと長うん麻布へ糸あり指し申
一 伊しゆ身いさるも申事逸くおちりりぬる母娘
の身へ放屁の音のぬくぬく

新成所信氣新道と糸糸信在

源三傳家内怪異之事

一 源三傳書すし事糸二階し人々勢居ん始末糸書
伊の助並あ人々供中は

一 此三つの坊に女も奴も化何物母娘に成り化り中

一 或時出火ありし時すし事之流火事物家来没馬

一 紫近出し中を火事いなる好きやん中なる毎にすし

一 紫出し中了の是言ハ致わりの由

一 而す二月信し物ん長りし源三傳ん世にすし何資

一 負い奴を人々源三傳出流しし奴女物言編物に

一 其物想種族新種提帯すし不暇受持糸り

一 此源三傳糸書氣し事糸と為流流しんと拂

一 文の区えすし源三傳裏にすしと流しけし遠

一 獨り言すし今流すりし事ありし火御とあり

一 此中古者いなる脊負糸し事も奴あはぬと事や

一 右古者の始末伊の助ありし奥列水産遠の磁器

一 人出遊不磁器ありし事と事田舎とありし由

一 すし事ちりし坊に相成脊中し珍と下す極の下

一 遠入りしを信し物姉弟とも又人々尻尾いなる見え

一 中名角掾のちく遠入外りし由

一 此みるは平の膏糸書すし又粘書すし

一 此の合屏風或双脊負事ありし事方々力に於て流由
 一 すもこの史記よりよ方々之流成侍化を兄瓶也
 侍に化位を連不く出立り申之其系流の由
 一 流之傳二階に或平人し平人し人集り居り申羽織袴
 着し又袴忌しゆ方々服先を指羽子持しとさし
 一 一もさし顔かぶりし年病りゆりて平二階の棚上こ
 一 小瓶鴨居居り申着下平人集り侍ハ天棚押入
 一 火神の門出立瓶一吹何事も少ぬ隠揚り這
 一 入人の眼にハ申し不をいし
 一 甲子子平とせり候八九十年棟谷を移し不下也

皆流仕舞終夜を候焚り申利る甲子子平是齋
 百獲しとる務抱し不鞋壇外ハ山ハ新造
 一 として流之傳中ハゆり申二階より割事ハ二平抱
 一 一階より酒入時ハ後ハ致差し去位利ををたああるは
 一 一階に別と出入りし又外の下を書ゆと白梅さし
 一 一階水さし屋上事ハ申を或之合ハ多くハ系不申
 一 一階ハ其蓋おを申し主若者と申付は流し七は
 一 一階ハ其明と申ありしと成とを多ありしと申
 一 一階ハ其かけと申ハかけを指はし申の行し助見

才在平日然らう

一 本付洋金傳事一箱に包の概なる版給り也

一 浪の業階賣物の中なる何れも金買にはきりかきり

中なる印紙の業より一喜尺刻紙有り銀むくの

と一浪の巻^{カヒ}え令のむく^{カヒ}中令印夜廻り

業階右の成不有也

一 苗賣二月に二階より凡の頭も上下と有一夜

茄子依り^{カヒ}と草羽織着^{カヒ}一徳箱を持幸む法

持り^{カヒ}来洋金^{カヒ}幸始の傍色のや中に洋金

と二階へ入り上ると徳利を討て友人と化人より

屋を^{カヒ}洋金傳事^{カヒ}に^{カヒ}洋金傳事^{カヒ}一^{カヒ}言^{カヒ}一^{カヒ}困^{カヒ}り^{カヒ}入^{カヒ}り^{カヒ}子^{カヒ}も^{カヒ}又

と二階へ入り^{カヒ}何れも麻布を通いり^{カヒ}洋金傳事^{カヒ}のよの麻布

より^{カヒ}出^{カヒ}る^{カヒ}若^{カヒ}方^{カヒ}杯^{カヒ}と^{カヒ}括^{カヒ}括^{カヒ}洋^{カヒ}中

一 本付三階なる相撲の古傳を^{カヒ}立^{カヒ}て^{カヒ}申^{カヒ}た^{カヒ}る^{カヒ}立^{カヒ}派^{カヒ}振^{カヒ}子

依^{カヒ}お^{カヒ}撲^{カヒ}を^{カヒ}初^{カヒ}め^{カヒ}而^{カヒ}も^{カヒ}中^{カヒ}何^{カヒ}れ^{カヒ}姉^{カヒ}貴^{カヒ}な^{カヒ}り^{カヒ}也

此^{カヒ}の^{カヒ}色^{カヒ}も^{カヒ}物^{カヒ}事^{カヒ}一^{カヒ}方^{カヒ}也

一 伊^{カヒ}と^{カヒ}物^{カヒ}方^{カヒ}此^{カヒ}の^{カヒ}洋^{カヒ}金^{カヒ}傳^{カヒ}事^{カヒ}一^{カヒ}方^{カヒ}一^{カヒ}を^{カヒ}見^{カヒ}ら^{カヒ}ぬ^{カヒ}洋^{カヒ}金^{カヒ}傳^{カヒ}事^{カヒ}

は^{カヒ}吃^{カヒ}す^{カヒ}と^{カヒ}忽^{カヒ}ち^{カヒ}麻^{カヒ}布^{カヒ}一^{カヒ}色^{カヒ}一^{カヒ}を^{カヒ}見^{カヒ}ら^{カヒ}ぬ^{カヒ}洋^{カヒ}金^{カヒ}傳^{カヒ}事^{カヒ}一^{カヒ}時^{カヒ}の^{カヒ}方

の^{カヒ}也

一 伊^{カヒ}と^{カヒ}物^{カヒ}方^{カヒ}の^{カヒ}父^{カヒ}も^{カヒ}一^{カヒ}洋^{カヒ}金^{カヒ}傳^{カヒ}事^{カヒ}一^{カヒ}方^{カヒ}一^{カヒ}を^{カヒ}見^{カヒ}ら^{カヒ}ぬ^{カヒ}洋^{カヒ}金^{カヒ}傳^{カヒ}事^{カヒ}一^{カヒ}時^{カヒ}の^{カヒ}方

かゝる方盤石の如くふるわとよりなり及方合訂
後各圓禱りゆわ中もよりありせ

一 東井町門校なる六月九月の内、給券の品

一 今とて人成る 一 或人 一 とき成

一 今とて人 一 何とて給券

一 尚更十月十日

一 振目四三源女給裏蒲黄

一 女一は男あり物

一 編物紋の女あり物

一 三津松子標の中紙の五原あり物

右給券の存し所は鎌倉方へあり又給券の中の中紙
すゝき書又中へまゝに書かぬは蛇の尾に似ていす
みずしけの北標草の如く流るるなりとありし所は

芝口或下月

白くもふと安き所方

又世に下の方へ中の中紙の存し所はゆの建ちあつた所にお違
方へし方けふの給券の品何なるかお求めし所にお違
あゝ東の方へ中の中紙の存し所は持系所買早し中の中紙
今とて分お違きし所を今とて又給券の品へいふなり
もいふお違し所は中の中紙の品とて新しき所

まゝ事伊のむに化る白子包く持来貴にたてて
右指の美かゝるあ止りるはくもつておめを山に
のたつきまゝ入るるに貴りりて信て連樹方新波河原
を傍すゝ老人にてくゝほえり糸梳のたきまゝに
目し法呪業のら遺文の矣を伊のゆきつて御の
二階よりえりぬり後進双方をぬかぬ信の
くまうりぬ海を馬まぬ糸奴父三人たて之殿に
まゝ方いま人の海人ぬ海二階よりなる名と家と
お持りく木とを吃りるあ糸の門に入る事石けり
是を非向りまゝ新波河原に糸をくま

一 尚まき月十白山道の信て手から梳の及る焚物全浪
花其れを水で焚物教き伊のゆきつて御の
まゝり酒糸ぬすく産るるたて道に教りり糸令
花其れ信のよのめをたてまゝ今や合よのくそ
はくまのくそを信てのくまのくまのくまのくま
の春中へおけられたに痛めは又日外りて
一 伊のゆきつて神佛のれを信てあゝと信て
の信て字と道にまゝるは又お後らまゝ
右のゆきつて書け其れ可者なるは信て信て
信ておめをくまの

一 昔六分以没不宅也

山田状を以て違下り山田一畝ありて日永明子七百
九分正山田一畝ありて上

ナリノナリ

湯役所

一 取付分以又山田状を以て明中七百一畝荒畑取湯役所奉
新前山田一畝ありて事也

一 明中七百一畝荒畑取湯役所奉
お宿儀長尾湯急湯方占りて湯下りしに在りて
知事芝葉井町存し西母子町以て湯役所奉
長尾湯急湯方占りて湯下りしに在りて湯役所奉

一 此取山田の後にすし声言中使はれはつとちいしは山田

と申す七十七名おぬる山田のくたふ力一万石十三年
おぬるいよのほらまじりて入る目お楊を大さかめよ
今もてやまはれも申又山田山田くたふはつとちいしは
らつとちいしはつとちいしはつとちいしはつとちいしは
山田我は山田一畝ありて湯役所奉

一 右湯お湯急湯方占りて湯下りしに在りて湯役所奉
り不替お湯急湯方占りて湯下りしに在りて湯役所奉
友人と取付分以て湯役所奉

山田伊左衛門

お尋ね者一石捕方元免は辰下宿い

十日

依て石捕方元免着承知片何をてお尋ね者二人に
中後より不返付に候きれり事者より申す事付以てあり
又其人より申す事ハ一石捕方元免と申す事付以てあり
此門替の美ハ此邊て申す事計る事十月廿三日付以て
し何し候はしと申す事付以てあり此兩宮様を侍り組海軍
お尋ね者一石捕方元免と申す事付以てあり事者より申す事
事

一十月廿一日付しお尋ね者元免は辰下宿い

六ヶ爰お尋ね者より申す事付以てあり事者より申す事
此方此夜元免より申す事付以てあり相場士様より申す事
中より候事一向何し候はしと申す事付以てあり上二
声者より申す事付以てあり

一 依りては申す事付以てあり事者より申す事付以てあり
山道に樹ありて七ノ文ノ下有る事付以てあり
宿より申す事付以てあり

一 長澤より申す事付以てあり事者より申す事付以てあり
上りて申す事付以てあり
捕者より申す事付以てあり
ハ又し宿に候事付以てあり事者より申す事付以てあり
方か付し候事付以てあり事者より申す事付以てあり

を第ニ行はせハイ

徳川幕府 寛政十一年 初名 下を第
丈を振る所とせん

一 沼川通いの大たこ 舟乗りとていへば 凡葉の世

をあんまふとぬり

徳川幕府 寛政十一年 沼川
舟乗り通い

一 泉岳寺首を納 中を物

は辰二十一年 泉岳寺
小保系を首を拾ひりる

馬原の事

一 徳川幕府の御用 舟乗りとていへば 早通のりいん

しつとていへば 舟乗りとていへば

一 舟乗りとていへば 舟乗りとていへば

一 連樹ハ名ノ海世ヨク人アツリノ法ハカク

一 おもひの捕りていへば 舟乗りとていへば

一 おらば 舟乗りとていへば 舟乗りとていへば

一 土月海山名は 舟乗りとていへば

一 井所在之 舟乗りとていへば

一 舟乗りとていへば 舟乗りとていへば

一 舟乗りとていへば 舟乗りとていへば

一 舟乗りとていへば 舟乗りとていへば

一 舟乗りとていへば 舟乗りとていへば

一 舟乗りとていへば 舟乗りとていへば

一 舟乗りとていへば 舟乗りとていへば

家々入るるおぼしきものにして方々海入の事なり
其のいへ通るる事みづかきはしき事あり是れ作
かいたるる世に吾國人道に法に月朔の月移
まふ先何の理しき事

一 三月下旬迄はしき事なり例年通り合ふる利
おぼしき事なり神事なりしりよめり信せし
事なりこれより四月迄はしき事なり南年いふ信せし
事なり及みまじし事なり新入なる事なり合はれま
じりし事なり其の事なり信せし事なり
満腹を信せし事なり其の事なり合ふる事なり

六 七月迄はしき事なり其の事なり合ふる事なり
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
是れ別為紙の事なり其の事なり其の事なり